

# どうぶつこうえん ニュース



No.31

1999

春



千葉市動物公園  
Chiba Zoological Park

## エンペラータマリン

霊長目 キヌザル科

当園では1985年のオープン以来、マーモセット類の収集展示に力を入れてきました。これまで飼育展示した種類は8種。亜種も含めると11種に及びます。今回、この飼育歴史の1ページにエンペラータマリンが加わるようになりました。

エンペラー（皇帝）の名前通り、口元には優雅な弧を描く、<sup>しょうしやう</sup>瀟洒な長い白い口ひげをたくわえています。動物の名前には、キング（王様）、エンペラーという名詞がくっついているものが結構あります（ペンギンなど）。キングとついているものは、色彩も<sup>びんらん</sup>絢爛豪華で体も大きく、威厳に満ちた様子のもので多いようです。対してエンペラーとついているものは、色彩的にはパステルカラー調の渋い色彩のものが多いようで、しかし、よく目を凝らすと落ち着いた中にも何やら豪華さがじわりと<sup>にじ</sup>滲み出ているような気がします。（私は京都の出身なので、このあたりの風情はよく心得ているつもりなのですが）。エンペラータマリンもそのようで、体全体は灰色をしていますが、尾が美しい赤褐色でつけねより3分の1あたりから先にかけて黒色へのグラデーションとなっています。白いひげと体の灰色と尾の赤褐色の取り合わせが実に渋さを感じさせてくれます。ブラジル、ペルー、ボリビアの3国が国境を接するあたりのアマゾン川上流域の熱帯雨林に生息しています。生息域を通じて個体数はそれほど多くなく珍しいようです。



今回導入されるのは父と息子という男所帯です。エンペラータマリンは国内でも飼育数が少なく、また最近繁殖が不調のようで、若いメスが慢性的に不足している状況です。早くお嫁さんを導入して、繁殖できる環境を整えてやりたいと思っています。エンペラータマリンの展示に伴い、科学館2階で続いていたシロガオマーモセットの重複展示は解消の運びとなります。ぜひ、小さな“皇帝”に会いに来て下さい。

松本 和人 (Kazuhito Matsumoto)

## 目次

### CONTENTS

|                              |   |
|------------------------------|---|
| 表紙【カイウサギ】                    | ① |
| トピックス【エンペラータマリン】             | ② |
| 特集【動物公園バードウォッチング】            | ③ |
| 飼育レポート【グレブーシマウマの繁殖】          | ④ |
| こどもどうぶつえんへようこそ               | ⑤ |
| 動物公園の動物④【フラミンゴ類】             | ⑥ |
| 飼育よもやま話【僕はスイギュウだぞ!】          |   |
| 動物公園日誌から【'98.10/1~'98.12/31】 | ⑦ |
| 編集後記                         |   |
| 裏表紙【ヨシガモ】                    | ⑧ |

## 表紙の動物説明 カイウサギ

ヨーロッパのイベリア半島（スペイン・ポルトガル）に生息していたアナウサギを家畜化したもので、毛・毛皮・肉など用途に応じて各種改良が加えられたため、その品種は極めて多く数十種以上はあります。日本でも明治時代には飼育が盛んで、「日本白色種」という品種もつくりだされました。現在も一部肉用や愛玩用の他、実験用動物として飼育されています。

秦 舜二 (Shunji Hata)

## 動物飼育数

平成11年1月末現在  
Classified number of animals  
as of 31 Jan. 1999

|     |         |     |    |          |
|-----|---------|-----|----|----------|
| 哺乳類 | 67種396点 | 両生類 | 1種 | 1点       |
| 鳥類  | 84種359点 | 魚類  | 2種 | 3点       |
| 爬虫類 | 5種      | 23点 | 総計 | 159種782点 |



自然保護への関心の高まりとともに、生涯できる趣味として日本でもすっかり定着したバードウォッチングですが、バードウォッチングの良さは、特別な準備がなくても、いつでもどこでもだれにでも気軽に始められることです。動物公園でも毎年1月に、初心者の方を対象にバードウォッチングを開催していますが、今回その様子を紙面を借りてご紹介いたしましょう。

朝7時30分に正門に集合。真冬の朝とあってかなり寒いが、鳥たちが一番活動していて観察しやすい時間なので仕方ない。簡単な説明の後、さっそく双眼鏡を首に正門から大池へと移動。「いた！」池の縁にカルガモが群れている。マスコミで騒がれてすっかり有名になったカモだ。そばに首の緑色が目立つマガモの雄もいる。嘴の先端が広がっているハシビロガモも泳いでいる。特に雄は胸が白いのでよく目につく。

「ピー」、「ピー」と笛を吹くような声の方を見ると、小さなカモがいる。コガモだ。その横でさらに小さな鳥が潜って

いる。カイツブリは潜水がとても上手く、大池に一年中いて繁殖もしている。

池の縁の木からきれいな緑色の小鳥が水中に飛び込み歓声が上がる。カワセミも大池に一年中いる鳥で、池にいる小魚を狙って毎日のように来ている。カワセミを初めて見てその美しさに魅了され、バードウォッチングにはまってしまった人も多いと聞く。

池の奥のヨシが茂っている所に、ひときわ大きな灰色の鳥がたたずんでる。アオサギだ。大きなサギなので、時々、ツルと間違える人もいます。

大池を離れて林の小道を行くと、道端の茂みで「チッ」、「チッ」と鳴きながら餌をさがしている小鳥がいる。アオジだ。4月頃になると、とてもいい声でさえずっている。さらに歩いていくと、突然「クワッ」、「クワッ」とツグミが鳴きながら飛び立つ。同じ仲間のアカハラやシロハラも毎年数多く見ることができる。今度は頭上で「コツ」、「コツ」と何かをたたく音がするので見上げると、コゲラがしきりに嘴で木の枝をつついてる。姿に似合わない力強さに感心する。同じ木には庭先にもよく来るシジュウガラやメジロが一緒になって群れている。冬季によく見られる「混群」で、群れをなしていると、お互いに餌を見つけやすかったり、天敵から逃げやすい利点があるらしい。

と、まあこんな具合に2時間の観察で毎年30種位は見られます。

冬の1日、のんびりと野鳥を観察に動物公園に来られてはいかがでしょうか。

秦 舜二 (Shunji Hata)



## グレビーシマウマの繁殖

### ●個体と飼育施設

当園ではグレビーシマウマを1988年2月14日にオス1頭、メス3頭、同年2月16日メス1頭、3月27日にオス1頭を導入し、88年、92年、98年に繁殖がみられました。現在オス1頭、メス4頭と今回生まれたオスの子供の計6頭が飼育されています。場所は草原A放飼場と呼ばれてい



生後2日目の涼（リョウ）

るところで、その広さは4421㎡です。鉄柵で仕切られた奥の丘にダチョウ、ボンテポック、ハゴロモヅル、手前の平地にグレビーシマウマが放飼されています。夜間は約60mの長さの通路を通過してそれぞれ1頭ずつ部屋に収容しています。

### ●繁殖まで

気の荒いグレビーシマウマ同志のトラブルを避けるため、当園では普段オスとメスを別々に放飼しています。シマウマの妊娠期間は13ヶ月程度なので今回のペアリングは気候の安定する97年5月12日より行いました。オスをメスのいる放飼場へ入れると一直線にメスへと向かって行き、今回出産したメスとは違う個体を執拗に追い回します。首や尻に噛みつきオス自身も振り返り血を浴びるほど激しいものです。しかしこの個体にはマウントをせず、この合間にほかのメスに近づいて行きます。このような行動を数日間繰り返した後、メスはオスを受け入れることとなります。前担当者の話を聞くと、当て馬の反対版ともいえるこの異常なまでの集中攻撃は毎回見られるとのこと。妊娠の兆候としては出産から逆算して交尾から8～9ヶ月後の頃から腹が垂れ下がり、次第に横方向にも張ってきます。また乳房も目立ち、他の報告でも言われている下腹部の中央付近の浮腫も見られました。食欲は全く変わらず、放飼場はもちろん、夕方室内の餌を

残すことはありませんでした。妊娠後期となる12ヶ月後の頃には胎動も見られ、出産が近いことがわかりました。

### ●現在まで

98年8月1日、朝出勤してみると出産はすでに終わっており、立ち上がりはしましたが、体はところどころ濡れていて四肢がおぼつかない様子でした。8月1日未明の早いうちに生れたのでしょう。早速ですが仕切り扉を使って親子を分けて体重を測りました。計測は子供を抱きかかえて人間用の体重計を用いました。体重37kg、性別はオスでした。8月2日から肢にすり傷が出来始め、7日令ではすり傷のない左前肢に腫れが目立ってきました。治療は子供を保定して抗生剤と消炎剤を注射していき、一週間で腫れが引いたため、治療を中止しました。また4ヶ月令では左前肢をかばう姿勢が見られたため、地面がより軟らかい川砂を敷いてあるパドックへ親子共移動して放飼しています。



母親の桜（サクラ）と

### ●おわりに

シマウマの中で最も体が大きく、縞模様が細く密になっている美しいグレビーシマウマは生息地であるアフリカ大陸で数を減らしてきており、国際的な保護が行われています。“絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約”（ワシントン条約）ではⅠ表に記載されています。国内では京都市動物園が窓口となって飼育個体の把握や、園館同志の移動の調整などを行っています。当園ではまだ繁殖例は多くありませんが、ペアリングを積極的に行い、今回の経験を生かして今まで以上に飼育、繁殖に力を入れていきたいと思っております。

樽川 修 (Osamu Tarukawa)

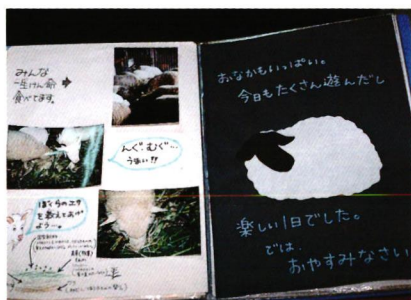
# どうぶつえんへようこそ

Welcome to Children's Zoo

## ～子ども動物園で人気の教材紹介 ④～

### エピソード集 その1 「ヤギとヒツジの一日」

写真を使った絵本タイプのお話です。ヤギやヒツジが放し飼いになっているコンタクトエリアで、動物達が実際にどのような一日を送っているかを紹介しています。ヤギやヒツジたちは、朝、「いまかいまか」と係員が来るのを待っています。足音を聞きつけて耳をそばだて、係員が入り口のドアを開けるなり、「早く外に出して下さーい」とばかりに大きな声で鳴きはじめ、扉が開くと同時に、運動場に準備された餌をめがけて一目散に走り出すのです。お客さんにとっては、普段は見られない朝の動物達の様子も、これを読めば手にとるようになります。



ヤギやヒツジにも、個性があります。飼育係でなければお伝えできない情報でいっぱいこの「お話」を、ぜひ一度お読みください。

### エピソード集 その2 「ポンちゃんの一生」

「ポン」という名のテンジクネズミの生まれてから死ぬまでのお話です。子ども動物園で生まれたオスのポンは、何度も何度も仲間のオスとけんかをして、いつも獣医さんの治療をうけていました。オス同志を仲良く飼うのはとても難しいのです。それでも、気があらくないので、「小動物コーナー」では毎日活躍しました。



4年ほどして、そろそろコンタクト動物としては引退です（テンジクネズミの寿命は5～6年と言われています）。毛の艶もだんだん悪くなり、背中も曲り、食も細くなり、やがて静かに息をひきとりました。そして天国で家族の行く末を見守るというこんなありふれたお話ですが、触れ合いのために飼われている動物が実際にどんな一生を送るのか知っていただきたいと、作ったお話です。

並木 美砂子 (Misako Namiki)

ここにご紹介したものは、すべて飼育センターのカウンターに置いてあり、どなたでもご覧になれます。



## 動物の体重をはかる

皆様も時々体重をはかるとお思います。目的は健康のバロメーターとして、あるいは美容（ダイエット）のためが多いのではないのでしょうか。動物の場合も、健康管理の方法の一つとして行います。時に薬の量を決めるのにも役立ちます。

11月20日にヤギ、ヒツジ、アルダブラゾウガメの体重をはかりました。ヤギ、ヒツジは肥満の個体がいるため、ゾウガメは肥っているのか、やせているのか見た目ではわからないので、今回の測定となりました。ヤギはとくに腹が左右に大

きくふくれるほど、肥っているオス（去勢）3頭は61～63kgもありました。メスも40kg前後のものが半数もいました。ヒツジは大きく肥っているのはいませんでした。ヤギたちは春から続けている減量をもう少し続ける必要がありそうです。

ゾウガメは大きい方（オス）は甲ら長さ107cm、甲らの巾75cm、体重187kg、小さい（メス）はそれぞれ82cm、60cm、91kgでした。オスは甲らの大きさの割に体重が多いようです。

宝川 範久 (Norihisa Takaragawa)

### 小動物コーナー日誌より

- 4, 5才くらいの男の子、ウサギを見て「このウサギ、何リス？」とひとりごと。

(12月10日)

- ナチュレーヌという名のついたここで一番大きなウサギを見た2才くらいの男の子から、「これ、牛乳出すの？」と聞かれてしまいました。ウシのように見えたのでしょうか。

(12月25日)



## 動物公園の動物…24

The animals in the Chiba Zoological Park

### フラミンゴ類

フラミンゴというとエキゾチックで幻想的なイメージがありますが、彼らは化石時代にまで遡れば汎世界的に分布していました。ヨーロッパや中近東、インドにも生息しており、古くから人間世界と関係を持った鳥でした。

ありとあらゆるものが食卓を飾り、飽食を極めたローマ時代の料理書を紐解けば「ラクダの蹄」、「ブタの脳」、その他ここでは書けない様なものも、そしてその中に「フラミンゴの舌」も載っています。奇異に思われる方が多いと思いますが、私は妙に納得してしまいました。彼らは水中の微小動物や藻類をその特殊な構造の嘴で漉し取って食べる時、舌を小



刻みに動かします。肉にしても魚にしてもよく動かす部位は美味しいと言います。このフラミンゴの舌は決して退廃的な「ゲテモノ喰い」では無かったと考えます（検証する気はありませんが）。その後もルネッサンス時代、フランスの文学者ラブレの作品中の酒宴の場面ではシギ、コウノトリに混じってやはりフラミンゴが登場しています。

一方南米に於いては、フラミンゴの脂肪が肺結核の薬として食べられていたといわれています。彼らのあの鮮やかな羽色は餌となる藻類に含まれるカロチノイド系色素に由来しますが、この色素はビタミンA（VA）の材料にもなります。VAは体脂肪中に蓄積されます。VAの効能の一つには感染症に対する抵抗力をつけるというものがありますが、彼らの脂肪中のVA量が多いというデータまでは行きつきませんでした。従ってこの因果関係については「まゆつば」です。理由は何にせよ彼らが人間にとって魅力ある食材であったのは事実でしょう。最後に一つ付け加えると、キリスト教世界に於いてフラミンゴは伝説の不死鳥の正体だと信じられていた時代があります。

清田 義昭 (Yoshiaki Kiyota)



## 飼育よもやま話

Keeper's Episode

### 「僕はスイギュウだぞ！」

どっしりとした頑強なからだ。その大きなからだを支えるに十分な四肢。牛歩のごとく、文字どおりゆったりとした足の運びをみせているのがアジアスイギュウ。体重700kg～800kgにも達し、日光浴が大好きで日だまりにじっとしている事も多いのですが、その大きなからだは多くのハエなどがあたかも絶好の休息場所でもあるかのように、数多く群がっています。するとスイギュウはその尾をチック・タックと振り子のごとく左右に動かし振り払おうとするものの、その効果の程は疑わしいものです。また、同居しているサカツラガンにもその嘴で足の皮膚や喉の弛みを引っ張られるやらの連続です。安住の地を求めている訳でもないでしょうが、池の中にそのからだを目許まで浸かり、あたかも時の経過を待つかのようにじっとしている姿が見られます。しかもその水も糞尿や泥にまみれ黒く<sup>よど</sup>ぬぐこともたびたびです。その水中から目にするものといえば黒く大きな頭、所在無げな腫と半円状にカーブしている角。そのウシ科の角というものは、成長し続け途中で落角するような事はありません。ですから、年齢が加わることで、頼りなげなスイギュウでも重量感のあるりっぱな角が見られるのです。

当園では、スイギュウの左右に目を移すとほかにも角をも



つ大きな動物をたくさん見ることができます。トナカイ、バイソン、ヤク、ムフロンなど草食動物のさまざまな形態の角を比較し楽しむことができます。いま例にあげた動物でも、角の機能や形態については動物により異なります。大きく分類すると通年見られるものと、そうでないものとに分けられます。後者の代表格では多くの方がまず連想される動物はというと、シカ科のニホンジカやトナカイではないでしょうか。草食動物のゾーンに來られたならば、動物のそれぞれの色彩や大きさを見て楽しむのはもちろんですが、見落としがちで動物の頭上と足元に目を配り、その動物の角や蹄なども見て楽しむような観察を心掛けてはどうでしょう。

牧野 辰男 (Tatsuo Makino)



# 動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'98年10月1日~'98年12月31日

- 10月 4日 カリフォルニアアシカ（雌1）、動物交換で搬出  
ヤギ・ヒツジ（全頭）、腰マヒ予防薬接種
- 10月 7日 園内、防災訓練実施
- 10月 8日 トナカイ（雌ナウシカ）、心筋梗塞で死亡
- 10月 9日 C B S G会議に、宗近副園長、高橋出席（11日  
まで、横浜市にて）
- 10月11日 ワオキツネザル（雌ブル）、胸部腫瘍で死亡
- 10月18日 「折り紙教室」開催（講師 レクリエーションコ  
ーディネーター <sup>たかのほし</sup> 鷹薙 妙子氏）
- 10月19日 第8回ゾウ会議に、古谷出席（20日まで、大阪天  
王寺動物園にて）
- 10月21日 カンムリバト（雄1）、動物交換で新着
- 10月25日 「ワンポイントウォッチング」開催（パタスザル）  
（講師 飼育課 佐藤 幹雄）
- 10月26日 園内、全域停電（受電設備点検の為）
- 11月 1日 「動物をはかる会」開催（千葉市計量検査所と共催）



- 11月2日 オランウータン（雄フトシ）、検疫明けで、本日  
より（雌ナナ）とペアリングを実施



- 11月 3日 「ZOOクイズラリー」開催
  - 11月 7日 ワキグロコブガモ（雌1）、肝破裂で死亡
  - 11月10日 スレンダーロリス（雌1）、肝炎で死亡
- 関東東北ブロック動物園技術者研究会に、牧野

- 係長出席（埼玉こども動物自然公園にて）
- 11月11日 中学生職場訪問（千葉市立みつわ台中学校、6名）
- 11月13日 中学生職場訪問（千葉市立高洲第二中学校、7名）  
ホオカザリヅル（雄1）、動物交換で搬出  
ベニイロフラミンゴ（雌1）、動物交換で新着
- 11月14日 「アニマルスクール」開催—動物園の動物が病気  
になったら—（講師 飼育課 市川 心一）
- 11月15日 「写真コンクール授賞式・講演会」開催（講師  
動物自然写真家 吉野 信氏）
- 11月22日 「ワンポイントウォッチング」開催（ダマワラビー）  
（講師 飼育課 並木 美砂子）
- 11月24日 カリフォルニアアシカ（雌1）、動物交換で新着
- 11月25日 中学生職場訪問（千葉市立草野中学校、6名）
- 11月26日 中学生職場訪問（千葉市立土気南中学校、5名）
- 11月28日 中学生職場訪問（千葉市立横橋中学校、5名）
- 12月 1日 中学生職場訪問（千葉市立椿森中学校、6名）
- 12月 6日 「クリスマス音楽会」開催（演奏 平井 紀子氏）



- 12月 7日 ムフロン他2種15点、動物交換で搬出  
トナカイ他2種5点、動物交換で新着  
アフリカハゲコウ（雌1）、避寒の為、春まで展  
示休止
- 12月 8日 第46回動物園技術者研究会に、宝川係長、中村  
（誠）出席（10日まで、京都市動物園にて）
- 12月14日 ココノオビアルマジロ（雄1）、動物交換で新着
- 12月17日 ポト（雄1）、肺炎で死亡

小林 正典（Masanori Kobayashi）

## 編集後記

昨年スリランカから寄贈されたゾウの骨が、骨格標本として3月16日から動物科学館エントランスホールにて、お披露目となります。現在国内でゾウの骨格標本を常設展示しているのは、神戸市立王子動物園だけです。ご来園の折は、ぜひご覧ください。骨格から姿かたちを想ゾウするのも楽しいですよ。どうぶつこうえんニュース次回発行予定は、平成11年6月1日です。

（白井 剛）



ヨ シ ガ モ

## お 知 ら せ

★動物公園ドリームワールド内観覧車は、お色直しも終わり  
3月10日（水）から運転を再開いたします。高さ50メー  
トルからの大パノラマを楽しんでみませんか。